

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こどもサポート教室『きらり』和歌山岩出校		
○保護者評価実施期間	2024年 11月 12日		~ 2024年 12月 21日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	13	(回答者数) 10
○従業者評価実施期間	2024年 11月 12日		~ 2024年 12月 21日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 1月 9日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	壁面製作に子どもたちの作品が飾られている。毎月テーマを決めて、はさみやのりを使用しながら、その児にあった、製作に取り組むことができている。	季節の感じられる製作テーマを考えている。その児にあった難易度を考え、取り組むようにしている。さまざまな色を使うようにしている。様々な素材や、廃材を使用している。	みんなで一つの作品に取り組む。絵具など、使用する。
2	支援室が広いので、体を十分に動かせる活動を行うことができている。	大きい遊具を広げ、複数でも使用できるようにしている。小集団やペア支援など、子ども同士のかかわりも持ちながら遊べるようにしている。一人でも十分楽しめるようにしている。	転倒やケガなどがないように、いつでも指導員の手が届く場所にいる。パーソナルスペースを守れるようにする。
3	絵本や知育玩具が充実している。	色々なことを体験できるように、支援内容によって変化をつけ、楽しめるようにしている。知育玩具をフル活用できるようにしている。	新しい知育玩具のチェックもしている。いつでも使いやすうに、整理整頓を行う。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	支援室がワンフロアなので、広いのはよいが、個々の支援内容が異なるため、互いに影響を受けやすい。	学習支援と体を動かす支援など、同時間に重なるため、同時刻に取らないが理想ではあるが、保護者の都合や意向により物理的に難しい。気が散るなどの弊害も生まれる。	できるだけ視界に入らないように椅子の向きを変える その場しのぎではあるが、できるだけ気が散らないように離れるなど できるだけ同時に学習、動きのタイミングにする。 パーソナルスペースの確保。
2	保育所等訪問などの教育機関との連携が不足している。	積極的に保護者への打診や、提案を行えていなかった。	保護者と連携とって、学校訪問や情報共有できるよう、声掛けしていく。相談を受けた際は、学校の様子を見たいという要望も打診する。繋げてもらう。
3	保護者同士のかかわりや、対話をする機会が少なかった。	イベントの開催ができていない 個別支援のため、機会がないと思い企画を作れていなかった。 保護者の都合を考えすぎた	場所の提供だけでもできるようにする 話せる機会を設ける イベントの開催を行い、保護者が横の繋がりを有する機会を作れるようにする。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 こどもサポート教室『きらり』和歌山岩出校

公表日 2025年 2月 15日

利用児童数 14

回収数 10

		チェック項目					ご意見	ご意見を踏まえた対応
			はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	8	1	0	1		
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	9	0	0	1		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	8	0	0	1		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	9	1	0	0		
適切 な 支 援 の 提 供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	9	0	0	1		
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	9	0	0	1		
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	9	0	0	1		
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	8	0	0	2		
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	9	1	0	0		
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	6	1	0	3		
	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	2	1	2	5		
保 護 者 へ の 説 明 等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	10	0	0	0		
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	10	0	0	0		
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	5	1	1	3		
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていますか。	9	1	0	0		
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	7	2	0	1		
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	10	0	0	0		
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	3	1	2	4		

	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	9	0	0	0		
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	9	0	0	0		
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	4	1	1	3		
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	9	0	0	0		
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	5	2	0	2		
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	4	1	1	3		
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	8	0	0	1		
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	7	0	0	2		
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	8	1	0	0		
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	8	1	0	0		
	29	事業所の支援に満足していますか。	8	1	0	0		

公表

事業所における自己評価結果

事業所名						公表日	2025年 2月 15日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	4	1	復習の支援が重なった時の配置について、その都度、支援内容で配置を考えている。	完全な個室が必要だと考える。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	4	1		常に求人を出す 就職フェアへの参加をしている	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	4	1	椅子な児童が重なった時、幼児机に移動するなどしている	児発から小学校低学年の大きい机用の幼児椅子が1脚しかないので不足している。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	5	0	毎日、就業前の掃除を行っている。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	5	0	個室が必要な児童を指導員が事前に把握できている。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	5	0	指導員が個々に支援のコマ数等を把握している。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5	0	保護者との対話の中でも意識しながら、何を求められているのか考えるようにしている。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5	0	常に互いが意見交換をしやすい環境づくりに努め、共有できるようにしている。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	4	1	評価表について話し合いをする機会を作っている。	外部評価を受けられる環境をつくる	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	5	0	毎月、研修会に参加している		
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	5	0	情報共有を常に行い、皆が把握できるようにしている。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	5	0	毎回のFBで情報共有をしている。		
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5	0			
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5	0			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5	0			
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5	0			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5	0			

供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5	0		
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	4	1	集団でもプログラムを考え、意見を交換することができている。	今後、小集団を増やしたいと考えている。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	4	1	支援前の職員間での打ち合わせは必ずとはい切れないが、必要に応じ適宜行っている。	時間を決め、定期的にミーティングの機会を設けるようにする。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	3	2	支援終了後の打ち合わせは必ずではないが、必要に応じ行っている。雑談レベルでは常に行っている。	時間を決め、定期的にミーティングの機会を設けるようにする。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5	0		
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5	0		
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	4	1	他事業所と情報共有は定期的に行っている	積極的にこちらから会議の提案もできるようにしていく
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	4	1		仕組みは出来上がっていない為、少しずつ体制を整えられるようにしていく
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	3	2		保護者に提案し、繋げてもらえるようにする
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	0	5		
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	2	1	会社内で横の繋がりを活かし、助言を頂いている。	クラゼミの中で、専門の指導員に来所してもらい、助言をうけられるようにする。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	0	5		個別の為、課題的には難しいため、今後の必要性を考えていく。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5	0		
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	4	1	子サバなど、定期的に進め、参加を促し、情報提供を行える体制を作るようにしている	普段の支援への参加を促したり、見学してもらおうようにしていく。
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5	0		
36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5	0			

保護者への説明等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	5	0		
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5	0		
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	1	4		場所の提供だけでもできるようにする 話せる機会を設ける イベントの開催を行い、保護者が横の繋がり を持てる機会を作れるようにする。
	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5	0		
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	5	0		
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5	0		
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5	0		
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	1	4		会社と相談し、行う機会があれば行う。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5	0		
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5	0		
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	5	0		
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	3	2		食事をする機会があれば、その都度、確認を行うようにする。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5	0		
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	5	0		
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5	0		
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5	0		
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	5	0			